

変化を力に進むまち。

YOKOSUKA VISION 2030

横須賀市基本構想・基本計画

ハンドブック



YOKOSUKA VISION 2030 とは

これからの横須賀は、何を大切にし、どう進んでいくのか、
さらに、2030年の横須賀はこうありたいという姿を描いたものです。
「そんな先のことは分からない!」と思うかもしれません。
確かに、今のような変化が目まぐるしい世の中では、
未来を正しく予測することはできないでしょう。

けれども、そんな時代だからこそ、
「未来はどうなるのか?」ではなく、
「私たちはどうありたいのか」をみんなで考え
それに向かって一歩ずつ進んでいくことが大切です。

このビジョンは、横須賀に関わる多くの人たちと
どんな横須賀になりたいのかを語り合いながら作りました。
そして「変化を力に進むまち。横須賀市」という未来像を掲げ、
10の分野で、それぞれ目指す未来の姿を描きました。

これから、このビジョンを実現するためにも、
たくさんの仲間と協力することが必要です。
さあ、一緒に歩きだしましょう。素晴らしい未来を目指して。

変化を力に 進むまち。 横須賀市



温暖な気候と半島特有の海やみどりなどの自然環境。
開国期を彩り近代文明の礎を築いた歴史。
地域の風土に根づいた文化。
多くの外国人の居住や、外国人との交流が生み出す国際的な雰囲気。
集積する、先端的な研究開発機関。
横須賀には「国際海の手文化都市」として育んできた
まちの魅力があります。

しかし、急速に進む人口減少、少子高齢化。
さまざまな分野でのテクノロジーの劇的な進歩。
地球規模での気候変動。
また、新型コロナウイルスの流行により求められる新たな社会システムへの転換。

このような社会情勢の中では、これまでのまちづくりの姿勢を踏まえながらも、
私たちは、心と知恵と力を合わせ、この変化を受け入れ、立ち向かう必要があります。

変化には不安が付きまとうもので、一步を踏み出すには勇気が必要です。

横須賀に根づく、人と人との絆、助け合い、人情。
そして自他区別のない思いやりや慈しみの心。
この「誰も一人にさせない」という変わらぬ精神こそ、
変化への不安を和らげ、人々が一步を踏み出す勇気になり、
そして最後には変化の荒波を乗り越え、その先へ進む原動力になると考えています。

すべての“ひと”が自分らしく輝けるまちへ。

人も自然も共生する“まち”へ。

「やりがい」と「やりたい」から“しごと”が生みだされるまちへ。

「自分ごと」の意識が未来の“環境”を守るまちへ。

今あるまちの魅力に改めて目を向け、そして変化を追い風にして、
2030年、希望ある豊かな横須賀を目指し進んでいきます。

ひと

すべての“ひと”が 自分らしく輝けるまちへ

一人ひとりが自分らしく幸せでいられること。

さまざまな人々が生涯を通じて育てあい、ともに成長を喜べること。

いつまでも、心も体も健やかで家族や仲間と過ごせること。

横須賀の力の源泉である“ひと”の輝きは、さらに増していきます。

しごと

「やりがい」と「やりたい」から “しごと”が生まれるまちへ

新しいビジネスに挑戦したくなること。

仕事も遊びもワクワクできること。

海や歴史、文化など横須賀ならではの魅力を生かしていくこと。

やりがい と やりたい を“しごと”の原動力としていきます。

まち

人も自然も 共生する“まち”へ

性別・年齢・人種などの違いを力にしていくこと。

いざという時に備え、非常時こそみんなで助け合うこと。

人にも自然にもやさしいまちで、平和に暮らしていただけること。

地域の多様性と調和が“まち”をつくっていきます。

環境

「自分ごと」の意識が 未来の“環境”を守るまちへ

横須賀の自然環境を大切に思うこと。

みんなが未来の環境について考えること。

自分ができることから始めること。

“環境”への意識を高め、持続可能な未来へつなげていきます。

分野別未来像

福祉

誰もが自分らしく
幸せに生きられるまち



すべての人は生まれながらに
「幸せになる権利」を持っています。
幸せに届かない「何か」があるならば、
その声にしっかりと耳を傾け、
皆で手を取り合ってサポートしていく。
これこそが横須賀の考える福祉です。
この考えをもとに、
横須賀ならではの福祉を
追求していきます。



「大丈夫ですか。」

困っていたら 助け合う。

辛いことがあったら 支え合う。

手を伸ばせば 触れられる 距離にあるのに

それが 意外と 難しい。

それでも 一歩踏み出せば 手を取りあえる。

自分も そうでありたいと 思う。

この まちの みんなが そうであるように。



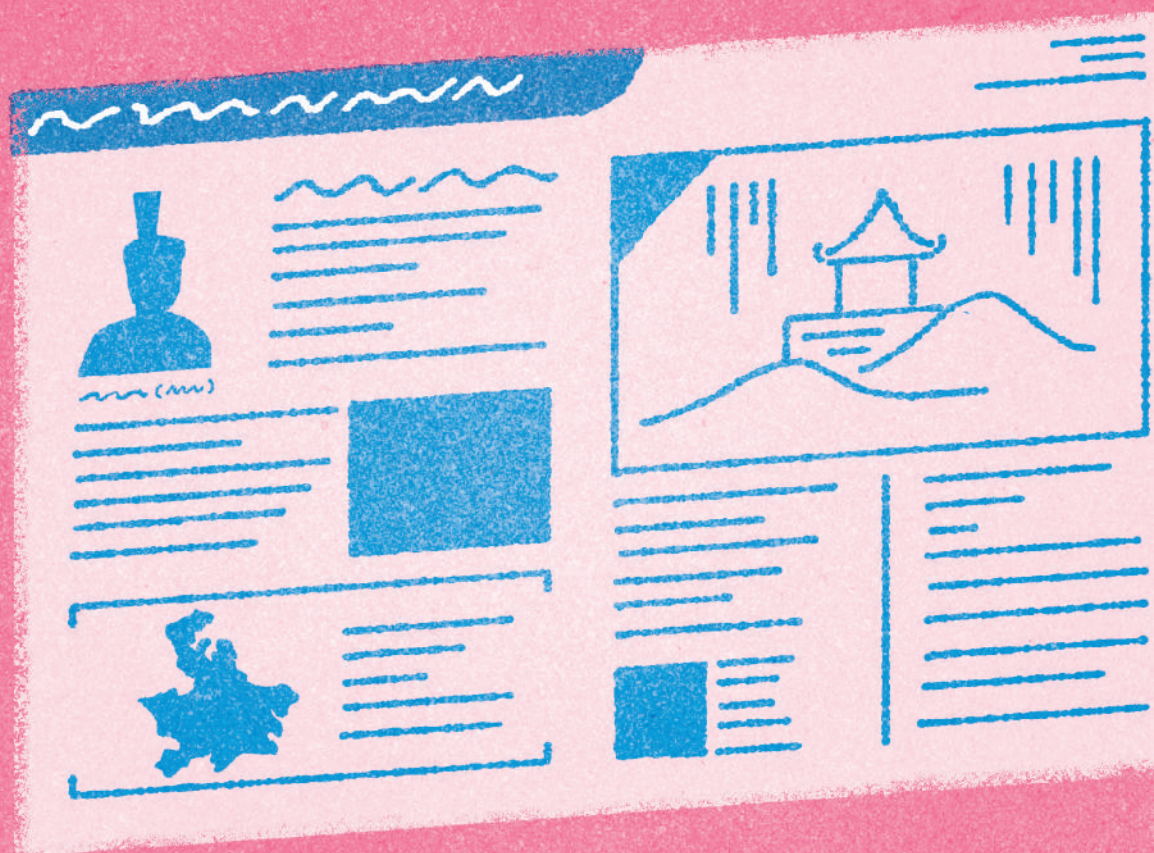
分野別未来像

子育て・教育

いくつになっても
育てあうまち



育つことと育てること、
教わることと教えることは、
共に人を成長させる素晴らしい機会です。
私たちには、人生のさまざまな局面で
その両方の機会が訪れます。
そのチャンスを家庭や学校だけではなく、
より多くの人に提供し、
人生100年時代、生涯を通じて、
誰もが成長の喜びを感じられるような
サイクルをつくっていきます。



「ひと昔前は こんなことが あったのよ。」

好奇心旺盛な目が 輝き出す。

子どもたちの 学びの姿勢は 見習わなければ

私は 先生であり 生徒でもあるのだ。



分野別未来像

健康・医療

健康がすぐそばに あるまち



住み慣れた地域で

いつまでも健康で過ごすためには。

充実した医療の提供基盤に加えて、

自分にとって最良の主治医は

自分であるという考えのもと、

一人ひとりの健康寿命延伸の

取り組みが必要です。

ライフステージに応じた

健康増進の取り組みを進め、

ゆりかごから墓場まで、

自分らしく安心して過ごせるまちを

目指します。

「この数値が 気になるわ。」

こまめに 健康状態を チェックする。

「この後は お散歩へ 行こうかしら。」

少しでも長く このまちを

見守りたいからね。





分野別未来像

コミュニティ

多様な力で
つくるまち

